

めぶきフィナンシャルグループ 個人投資家向け会社説明会

平成29年3月



MEBUKI
めぶきフィナンシャルグループ

東証第1部 7167

目次

◆ めぶきフィナンシャルグループの発足	3
◆ (参考)規模とマーケット	4
◆ (参考)預金・貸出金の規模.....	5
◆ 統合基本戦略	6
① 地域創生への創意結集	7
② 総合金融サービスの拡充	8
◆ 統合シナジーの進捗	9
◆ 目指す姿の実現に向けた計画	10
◆ (参考)計数計画	11
◆ 第3四半期決算のポイント	12
◆ 通期業績見通し(めぶきFG連結)	13
◆ (参考)「負ののれん」について	14
◆ (参考)通期業績見通し(子銀行単体)	15
◆ 自己資本比率・格付	16
◆ 株主還元	17
◆ 株価の推移	18
◆ ホームページのご案内	19

めぶきフィナンシャルグループの発足

めぶきフィナンシャルグループは、平成28年10月1日、常陽銀行と足利ホールディングスの株式交換により、常陽銀行と足利銀行を子会社とする金融持株会社として発足しました。



(参考)規模とマーケット

めぶきフィナンシャルグループの規模

総資産 15兆3,242億円 有価証券残高 4兆336億円

純資産 9,091億円 従業員数 6,607人

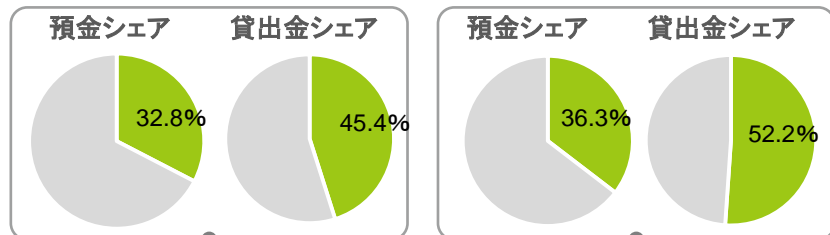
預金残高 13兆2,984億円 店舗数 (平成28年6月末時点、出張所含む) 332か店

貸出金残高 10兆1,447億円 (平成28年3月末時点、2行連結合算)

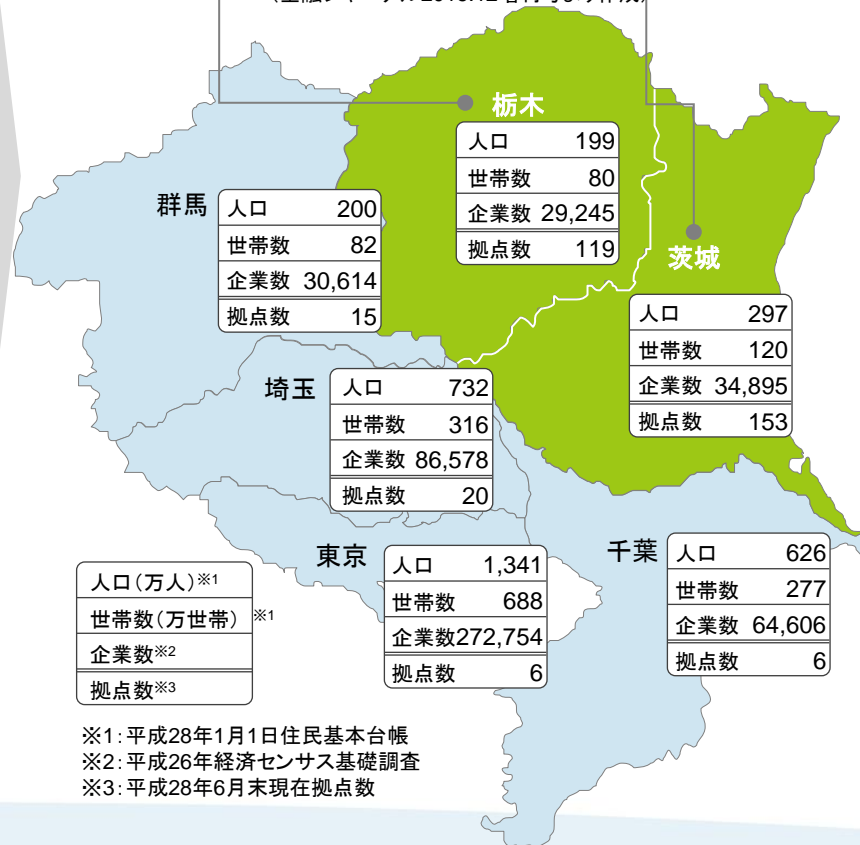
順位	銀行名	資産合計(兆円)
1	横浜銀行・東日本銀行(2行)	17.5
2	ふくおかフィナンシャルグループ(3行)	16.4
3	めぶきフィナンシャルグループ(2行)	15.3
4	千葉銀行	13.3
5	ほくほくフィナンシャルグループ	11.6
6	静岡銀行	11.1
7	山口フィナンシャルグループ	10.4
8	常陽銀行	9.3
9	西日本シティ銀行	9.1
10	九州フィナンシャルグループ	8.9
⋮		
21	足利ホールディングス	6.1

(平成28年3月末時点)

首都圏広域を後背においた茨城・栃木に圧倒的シェアのコアマーケット



(金融ジャーナル2016.12増刊号より作成)



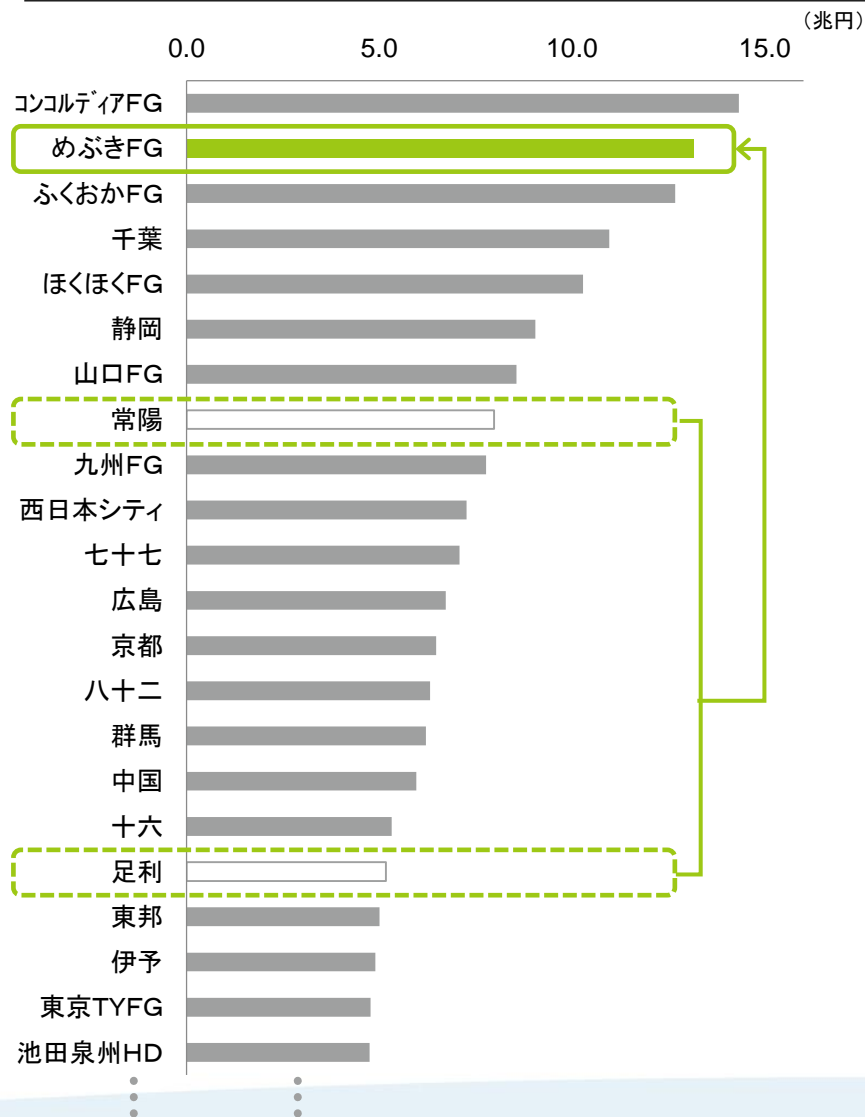
人口(万人)^{※1}
世帯数(万世帯)^{※1}
企業数^{※2}
拠点数^{※3}

※1:平成28年1月1日住民基本台帳
※2:平成26年経済センサス基礎調査
※3:平成28年6月末現在拠点数

(参考) 預金・貸出金の規模

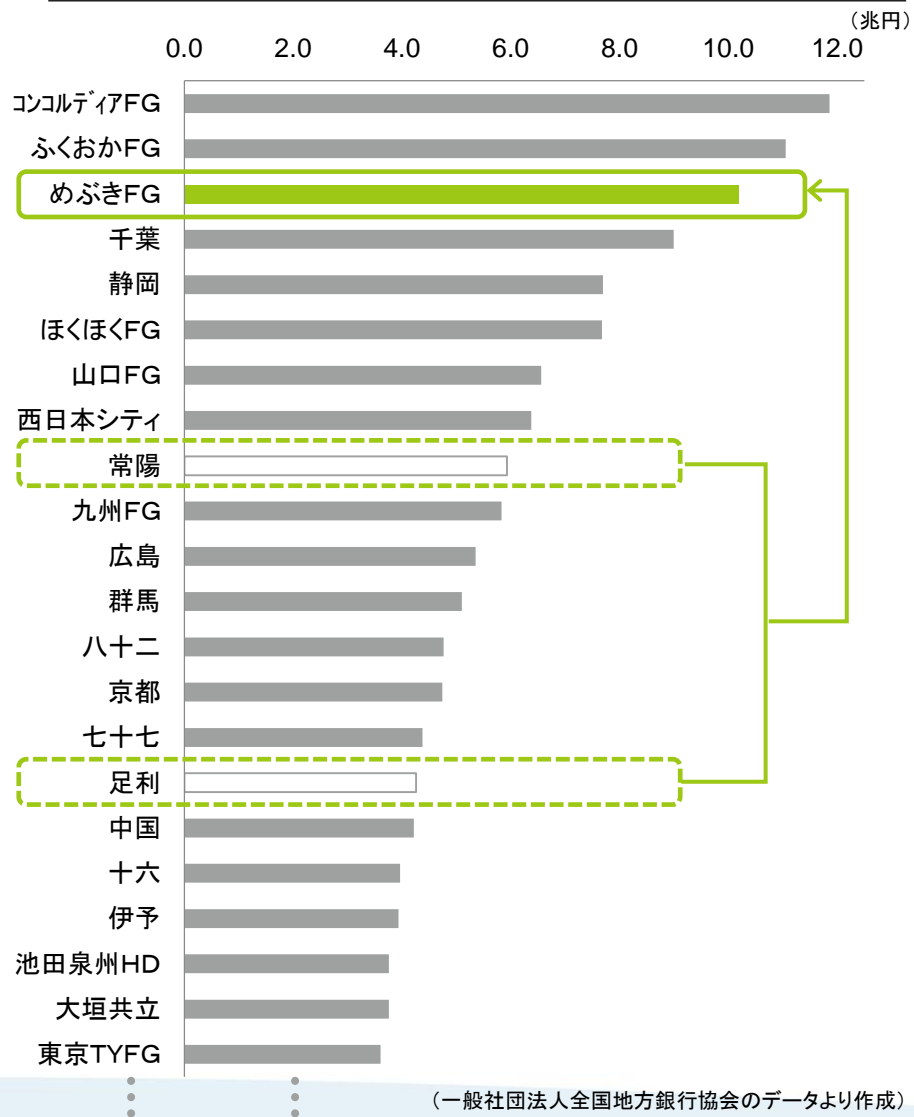
預金残高(上位20行)

(平成28年9月末時点)



貸出金残高(上位20行)

(平成28年9月末時点)



(一般社団法人全国地方銀行協会のデータより作成)

統合基本戦略

5つの統合基本戦略に取り組み、総合金融サービスの拡充や広域ネットワークの活用により、地域産業の掘り起し、市場の創出・活性化に向けた活動を展開するとともに、地域とともに持続的な成長を実現します。

①地域創生への創意結集

- 主要地盤とネットワークを活用し、幅広い支援施策を協働展開するとともに、新グループの創意結集のもと、地域創生・活性化に貢献します。

事例 P7

②総合金融サービスの拡充

- 「スケール・スコープの拡大」と「質の向上」を図り、より付加価値の高いワンストップサービスを提供します。
- 有価証券運用ノウハウの共有や一体運用の検討など、シナジー効果の幅広い取込みを図ります。

事例 P8

③エリア・チャネルの拡充

- お客様の利便性向上、地域創生、活性化のために、広域ネットワークの一段の形成を図ります。
- WEBやATM等のダイレクトチャネルを強化し、タイムリーな情報と金融サービスをより多くのお客様に提供します。

④オペレーションの革新

- 事務・システムの共通化、共同化、統合を進め、お客様へのサービス向上、地域活性化の貢献に向けた経営資源を強化します。
- FinTechなどの新分野・成長分野に投資を振り向け、お客様へのサービス向上につなげます。

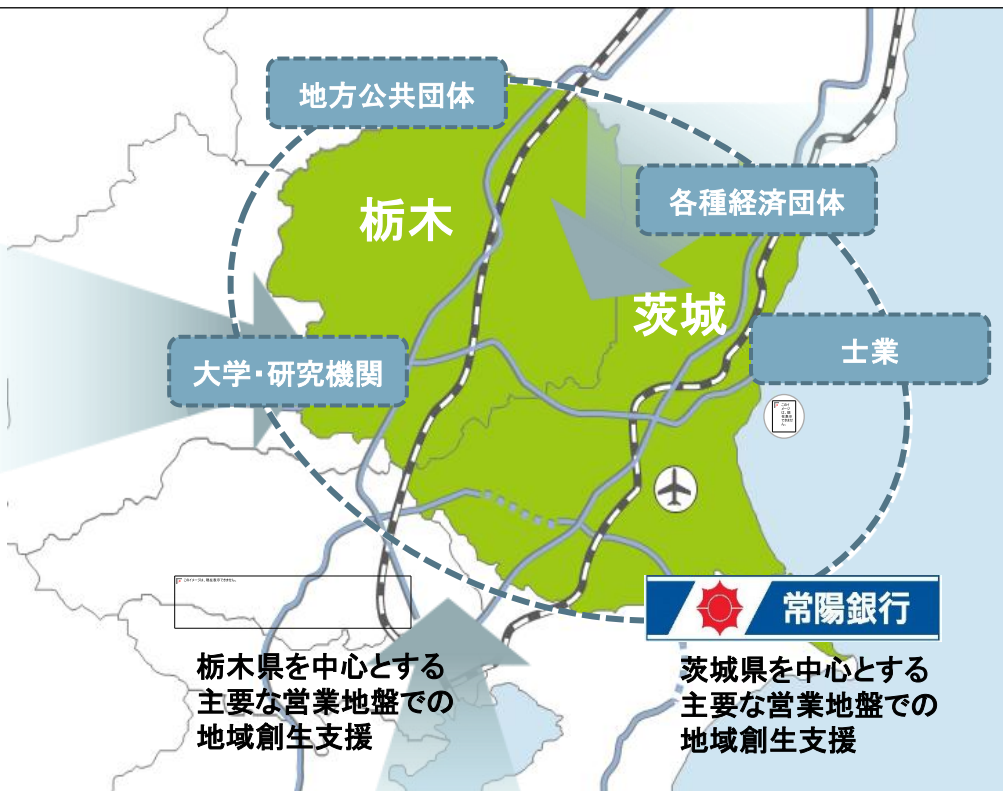
⑤新グループの経営管理態勢の構築

- 新グループとして適切な経営管理態勢を構築します。
- リスク管理の高度化を図り、円滑な金融仲介機能を高めます。

①地域創生への創意結集 ～ 広域地域連携支援の展開～

拡大する主要地盤とネットワークを活用し、地域資源や技術を掘り起こし、主要地盤の産業特性を踏まえた支援策を協働展開します。

広域地域連携支援



主な取組内容

広域ネットワークの活用促進

- コーディネート力の強化・高度化
- ビジネスマッチングの広域化
- 外部専門家等との連携

産業育成／新事業創出

- 産業育成・新事業支援プランの共同化
- 技術コーディネーター活用
- 首都圏・海外への進出支援
- 企業誘致・企業留置
- ビジネスコンテスト

地域のブランド化

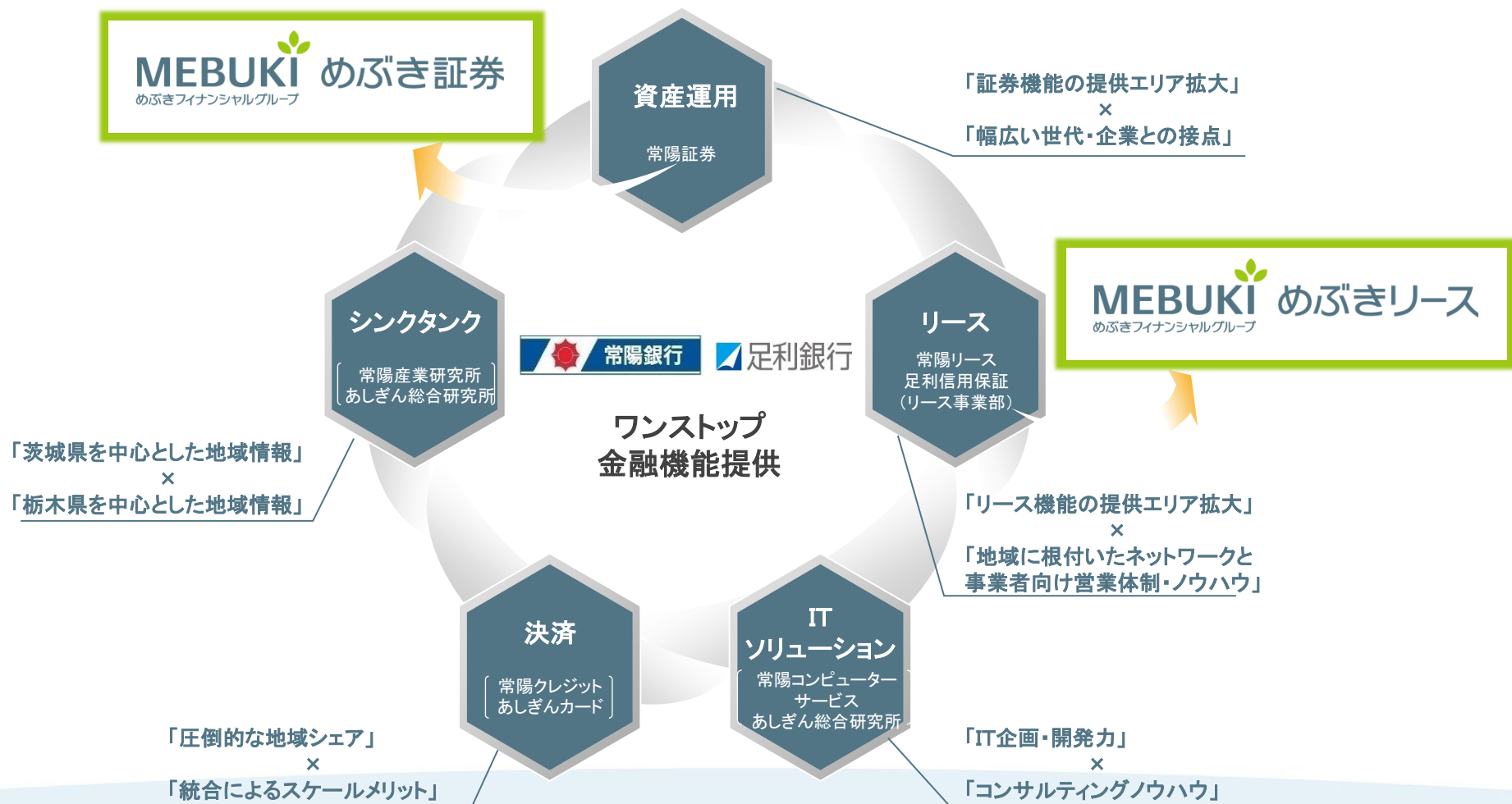
- 食・農/観光への投資・連携事業の創出支援
- 地域資源を活用した新商品開発支援

地公体との連携

- 商店街活性化
- 移住定住促進策提案等

②総合金融サービスの拡充～ワンストップ金融サービスのご提供～

常陽リース、常陽証券の名称を「めぶきリース」「めぶき証券」へ変更し、新金融グループとしての一体感を強めてまいります。今後もグループ機能を有機的に組合せ、多様化するお客さまのニーズに対して、より付加価値の高いワンストップ金融サービスを提供します。



統合シナジーの進捗 ～ DAY180プラン ～

実施項目		実施施策		28年10月～29年2月の実績
施策	チャネル	2行間における振込手数料の本支店化扱い	両行間の振込手数料を、本支店間手数料率へ引下げ。 【対象取引】 窓口、ATM(カード・現金)、インターネットバンキング	-
		ATMの相互入金	両行のカードをお持ちのお客様が、相手行のATMを利用した入金が可能。	-
	グループ会社	証券業務の協働	足利銀行のフィナンシャルコンサルタントが常駐する13支店で、常陽証券が取り扱う商品の媒介型仲介を開始。	○ FG全体の金融仲介実績 販売額 538億円(前年同期比+281億円) うち外債 447億円(同+290億円)
		リース業務の協働	足利銀行において、常陽リースのオートリースの取扱い開始。	○ 両行からの常陽リースへの情報取次ぎ 取次ぎ件数2,303件(前年同期比+817件)
預り資産	共同ファンドの設定	経営統合を記念して、茨城・栃木に関連する企業の株式を組み入れた投資信託「ふたつの夢」を設定し、両行で販売。	○ FG全体の販売実績 販売件数/金額 9,117件/202億円 【計画】200億円 ⇒ 達成率101.3%	
キャンペーン	個人	預り資産・キャンペーン	投資信託・外貨預金・円定期預金の取引(20万円以上)、積立をしていただいたお客さまに抽選で県産品をプレゼント(地元企業の応援、PRも目的)。	○ FG全体の販売実績(キャンペーン実績) 投資信託 282億円(前年同期比+36億円) 外貨預金 23億円(同+14億円) 積立 4,206件(同▲394件)
		マイカーローン 教育ローンの金利割引	マイカーローン、教育ローンの金利割引キャンペーンを展開。	○ マイカーローン 事前申込8,864件/164億円 実行3,254件/55億円 ○ 教育ローン 事前申込3,321件/89億円 実行1,204件/32億円
	法人	法人インターネットバンキング・キャンペーン	法人インターネットバンキングを新規にご契約いただいたお客さまに、契約料および3ヶ月分の月間手数料を優遇。	○ FG全体の約定実績 新規契約件数 2,532件(前年同期比+491件) 有償サービスの追加件数 802件
		シンクタンクセミナー	両行のシンクタンクのセミナーで、それぞれの地域情報・企業動向等を発信。夫々の会員が相手方の会員待遇でセミナーに参加。新たな会員獲得につなげるとともに、経済交流企画の拡大を図る。	○ 相互セミナーの参加実績 27社/41名
その他	体制	めぶき連絡窓口 めぶき地域連携会議	両行の本部に「めぶき連絡窓口」を設置するほか、10地域に「めぶき地域連携会議」を設置し、両行の融和・連携に向けた取組みを誘導し、顧客紹介や協調融資案件への取組みなどシナジーの早期実現に向けた取組みを実施。	【1月までの実績】 ○ 協調融資: 5先/1,223百万円 ○ シローン: 7先/1,425百万円 ○ 取引先紹介: 9先/968百万円

*金額はシナジー部分を記載

目指す姿の実現に向けた計画

第1次中期経営計画 (平成28年度下～平成30年度)

新グループを軌道に乗せ成功へと導く期間

連結当期
純利益

連結ROE

連結自己
資本比率

H30年度
470億円程度
5%以上
10%台半ば

システムなどインフラ整備

H28年度下

H29年度

H30年度

H31年度

H32年度

H33年度

50億円程度

150億円程度

■ トップラインシナジー*

■ 経費削減シナジー

■ 逆シナジー

[システム移行費用(うち
初期費用はH36年度償却
終了)]

※トップラインシナジー:トップライ
ン増加に伴い増加する費用は
控除しています。

第2次中期経営計画 (平成31年度～平成33年度)

本格的な成果の実現・次なる成長への
転換期間

(参考)H33年度

連結当期
純利益

640億円程度

連結ROE

6%以上

連結自己
資本比率

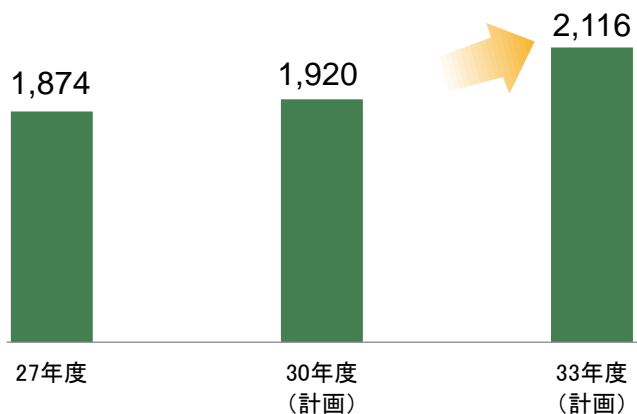
10.5%以上

【目指す姿】
地域の未来を創造
する総合金融
サービスグループ

(参考)計数計画(2行単純合算)

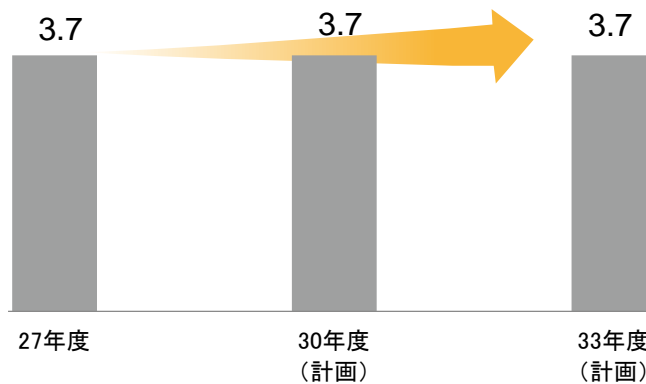
コア業務粗利益

(億円)



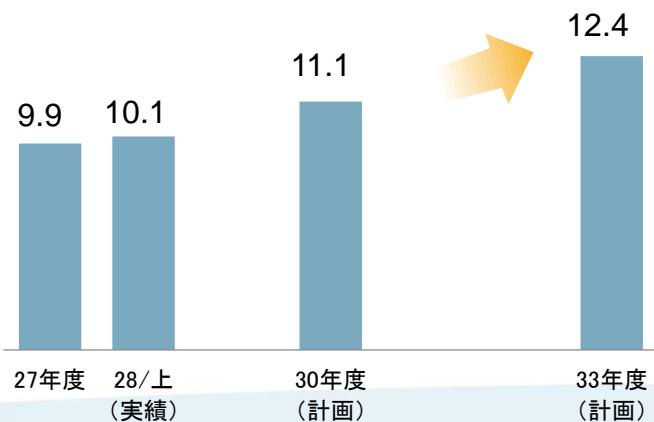
有価証券

(平残、兆円)



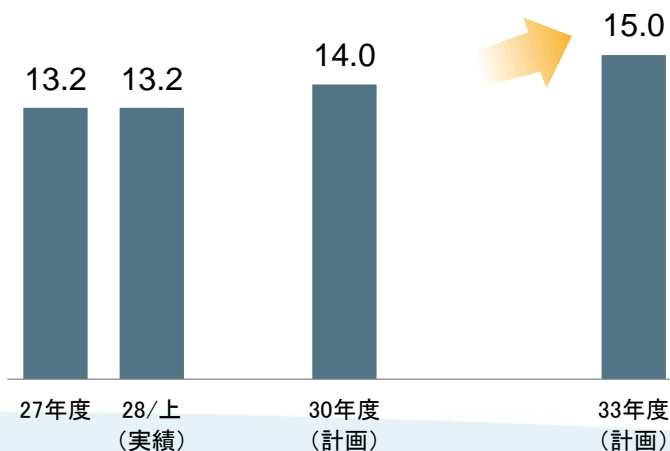
貸出金

(平残、兆円)



預金

(平残、兆円)



第3四半期決算のポイント

- ◇ めぶきFG連結の経常利益は428億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,531億円。
- ◇ 常陽銀行・足利銀行合算の四半期純利益は、単体ベースで470億円、連結ベースで520億円。

● めぶきフィナンシャルグループ (単位: 億円)

項目	FG 連結	進捗率	業績 予想
経常利益	428	80.7%	530
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,531	98.8%	1,550
(除く負ののれん発生益)	339	84.8%	400

(*) 進捗率は、通期業績予想(28年10月公表)に対する進捗率

- ・めぶきFG連結の28年度第3四半期の業績は、常陽銀行連結(上期:6ヶ月)にめぶきFG連結(10-12月:3ヶ月)を合算。
- ・経営統合に伴う「負ののれん発生益」1,192億円を特別利益に計上。

● 常陽銀行 (単位: 億円)

項目	【単体】	前年 同期比	増減率	進捗率	項目	【連結】	前年 同期比	増減率	進捗率
業務純益	334	+7	+2.2%	72.6%	業務純益	-	-	-	-
経常利益	339	+12	+3.7%	83.8%	経常利益	368	+7	+2.1%	81.8%
四半期純利益	236	+13	+6.2%	84.6%	四半期純利益	255	+10	+4.2%	82.5%

● 足利銀行 (単位: 億円)

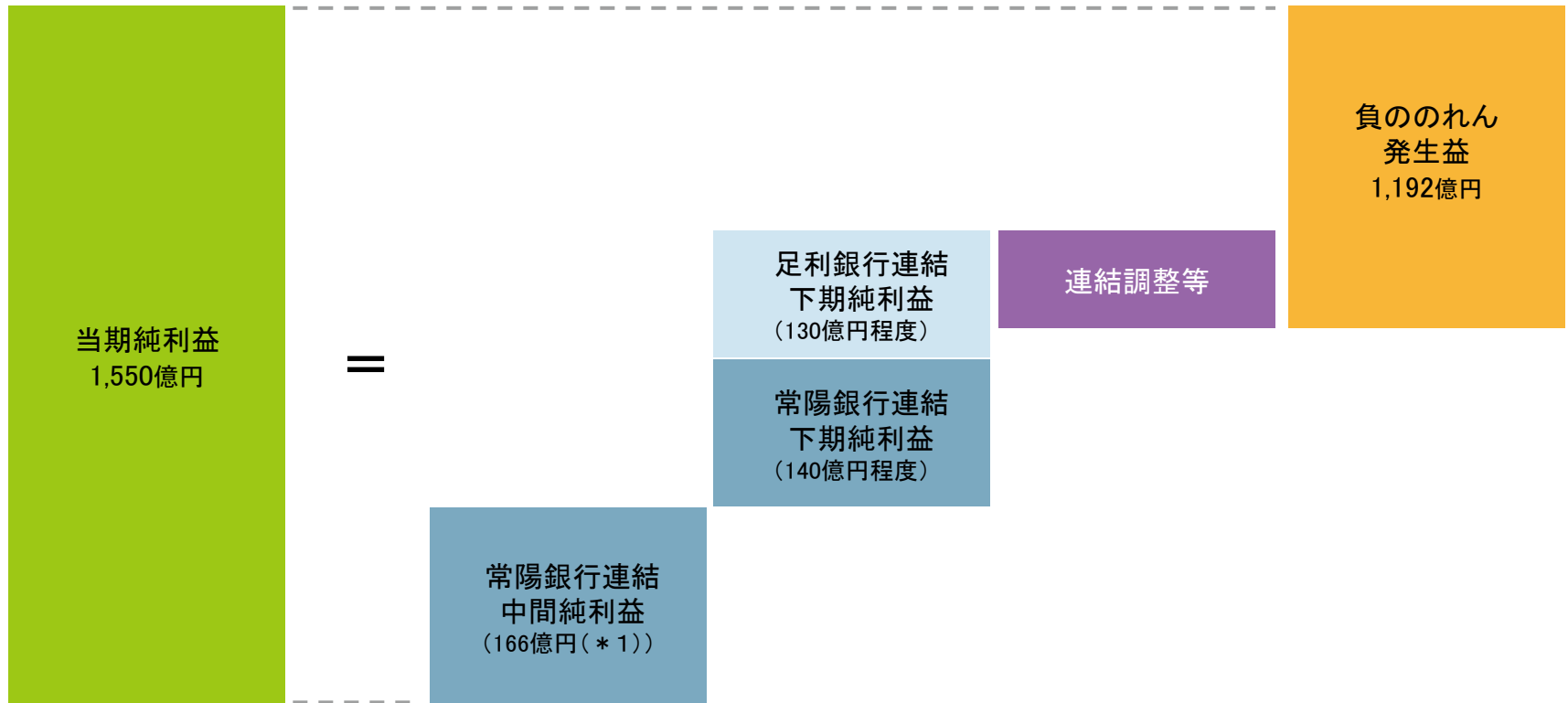
項目	【単体】	前年 同期比	増減率	進捗率	項目	【連結】	前年 同期比	増減率	進捗率
業務純益	288	Δ4	Δ1.5%	88.8%	業務純益	-	-	-	-
経常利益	273	Δ39	Δ12.7%	89.7%	経常利益	314	+18	+6.3%	99.7%
四半期純利益	233	+11	+5.2%	111.0%	四半期純利益	264	+58	+28.5%	123.0%

(*) 進捗率は、通期業績予想(28年5月公表)に対する進捗率

通期業績見通し(めぶきFG連結)

◇ めぶきFGの28年度通期業績見通しは、1,550億円を計画(負ののれん発生益1,192億円を含む)。

● 平成28年度通期業績見通し



(*1) 今回の経営統合は、会計上の取得企業が常陽銀行となることから、足利HD連結の中間純利益(120億円)は含まれない。足利HD連結の中間純利益は、経営統合後、めぶきFGの純資産に計上。

(参考)「負ののれん」について

【企業結合の方式】

株式交換<平成28年10月1日>

足利HD : 株式交換完全親会社

常陽銀行 : 株式交換完全子会社

【企業結合会計(逆取得に該当、パーチェス法を採用)】

負ののれん発生益を特別利益に1,192億円を計上

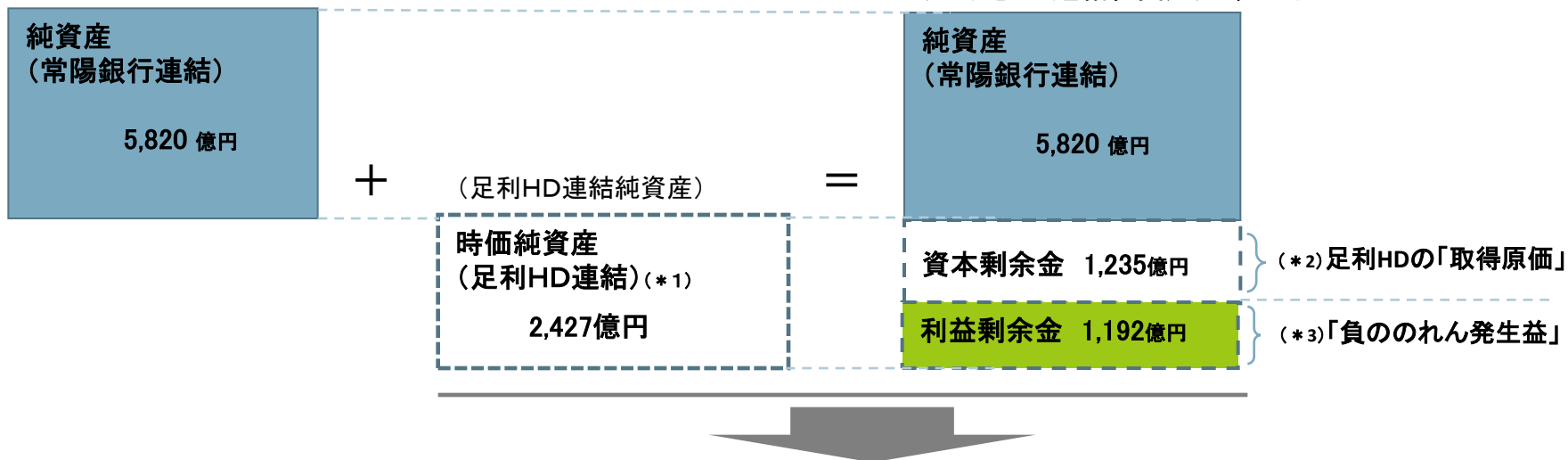
常陽銀行 : 取得企業

足利HD : 被取得企業

【イメージ図】

(常陽銀行連結純資産)

(めぶきFG連結純資産) 8,247 億円



○ 足利HDの「連結時価純資産」と「取得原価」の差額が「負ののれん発生益」となる。

「連結時価純資産」(*1)

足利HDからの受入資産・負債を時価評価し、足利HDで計上していた正ののれんを控除した金額。

足利HDの「取得原価」(*2)

パーチェス法に伴う取得原価は、経営統合時における足利HDの時価総額に相当し、資本剰余金に計上。

◇足利HDの調整後株式数÷1.17(統合比率)×常陽銀行の株価(最終売買日9/27終値)等

「負ののれん発生益」(*3)

損益計算書において「特別利益」に計上し、純資産の部は「利益剰余金」となる。

(参考) 通期業績見通し (子銀行単体)

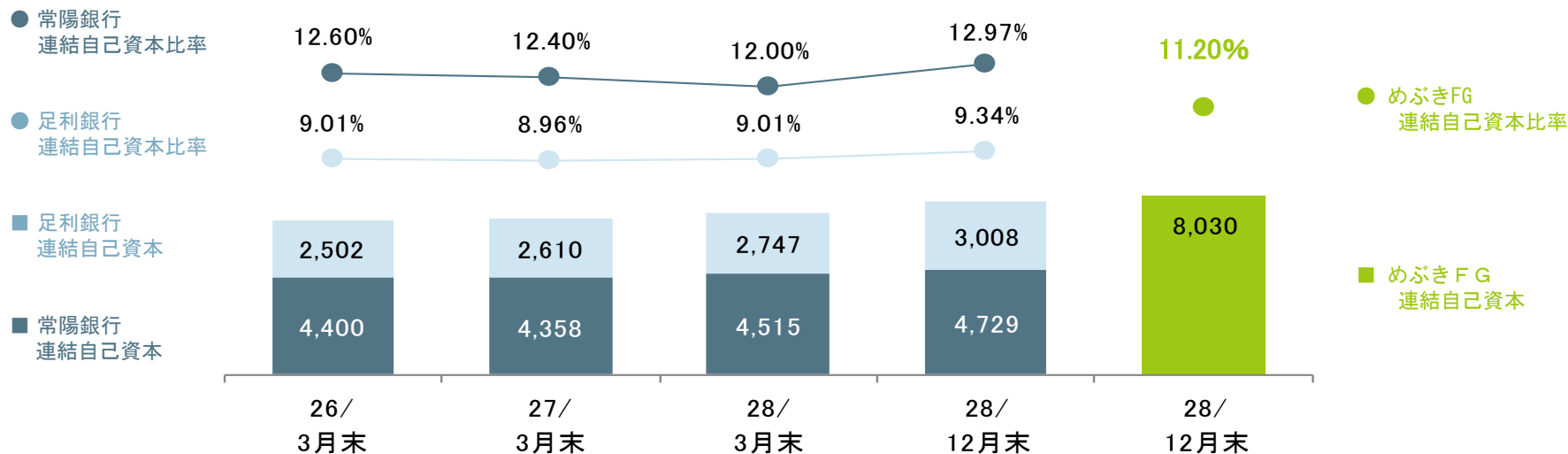
◇ 常陽銀行、足利銀行とも、当初業績予想値(28年5月公表)から変更なし。

2行単純合算の当期純利益(単体)は、490億円。

	27年度通期実績			28年度通期業績予想			前年度比					
	2行 合算	常陽 銀行	足利 銀行	2行 合算	常陽 銀行	足利 銀行	2行合算		常陽銀行		足利銀行	
							増減	増減率	増減	増減率	増減	増減率
業務粗利益	1,958	1,115	843	1,950	1,140	810	△8	△0.4%	+24	+2.2%	△33	△3.9%
資金利益	1,579	898	681	1,500	840	660	△79	△5.0%	△58	△6.5%	△21	△3.1%
役務取引等利益	304	154	149	328	180	148	+23	+7.7%	+25	+16.2%	-	△0.9%
その他業務利益・特定取引等利益 (うち国債等債券損益)	74	61	13	124	120	4	+49	+65.7%	+58	+94.3%	△9	△69.4%
(うち国債等債券損益)	84	76	8	90	90	-	+5	+5.9%	+13	+17.8%	△8	-
経費	1,153	682	470	1,165	680	485	+11	+1.0%	△2	△0.3%	+14	+3.0%
実質業務純益	805	432	373	785	460	325	△20	△2.5%	+27	+6.3%	△48	△12.9%
コア業務純益	720	356	364	695	370	325	△25	△3.5%	+13	+3.8%	△39	△10.8%
一般貸倒引当金繰入額 (a)	△6	△6	-	-	-	-	+6	-	+6	-	-	-
業務純益	812	439	373	785	460	325	△27	△3.3%	+20	+4.6%	△48	△12.9%
臨時損益	13	△12	25	△35	△55	20	△48	△368.2%	△42	+346.9%	△5	△21.1%
うち不良債権処理額 (b)	52	54	△2	75	50	25	+22	+44.0%	△4	△8.6%	+27	-
うち株式等関係損益	72	47	25	40	40	-	△32	△44.9%	△7	△15.6%	△25	-
経常利益	825	427	398	710	405	305	△115	△14.0%	△22	△5.1%	△93	△23.4%
特別損益	△10	△6	△3	1	2	△1	+11	-	+6	-	+2	△73.9%
当期純利益	586	277	308	490	280	210	△96	△16.4%	+2	+0.8%	△98	△31.9%
信用コスト (a)+(b)	45	47	△2	75	50	25	+29	+65.8%	+2	+4.4%	+27	-

自己資本比率・格付

自己資本比率



※信用リスクアセットの算出方法
常陽銀行：基礎的内部格付手法
足利銀行：標準的手法

<参考> 連結自己資本比率(経過措置なしの場合)

	26/3月末	27/3月末	28/3月末	28/12月末
めぶきFG	-	-	-	9.81%
常陽	11.35%	11.51%	11.16%	12.16%
足利	8.67%	8.64%	8.77%	9.10%

格付

○ R&I (格付投資情報センター)

○ ムーディーズ

めぶきFG	常陽銀行	足利銀行	常陽銀行
A	A+	A+	A2

株主還元

配当方針

- 新グループとしての成長に向けた資本の確保と株主さまへの適切な利益還元のバランスを考慮し、安定配当を目指します。
- 28年度期末配当は、経営統合記念配当1円を加え、6.5円とする予定。

【1株あたり配当の額】

主体	27年度	28年度	
	年間配当	中間配当	期末配当
常陽銀行 *1	13.0円 *2 (記念配当1円含む)	6.0円	めぶきFG
足利HD	10.0円 *3 (記念配当1円含む)	5.5円	6.5円 (記念配当1円含む)

*1 旧常陽銀行株式 28年度年間換算

13.6円＝常陽銀行中間配当6.0円＋めぶきFG期末配当6.5円×統合比率1.17

*2 創立80周年記念配当1円

*3 創業120周年記念配当1円

株主優待制度

【対象となる株主さま】

29年3月末日時点の当社株主名簿に記載された1,000株以上をお持ちの株主さま。

以降、毎年3月末日時点の株主さまを対象に実施いたします。

【株主優待制度の内容】

地元特産品等を記載しました専用カタログから、保有株式数に応じてお好みの特産品をお選びいただきます。

【株主優待制度の概要】

保有株式数	特産品の金額目安	アイテム数
1,000株以上 5,000株未満	2,500円相当	茨城県・栃木県の特産品を中心に 400アイテム以上(*)
5,000株以上 10,000株未満	4,000円相当	
10,000株以上	6,000円相当	

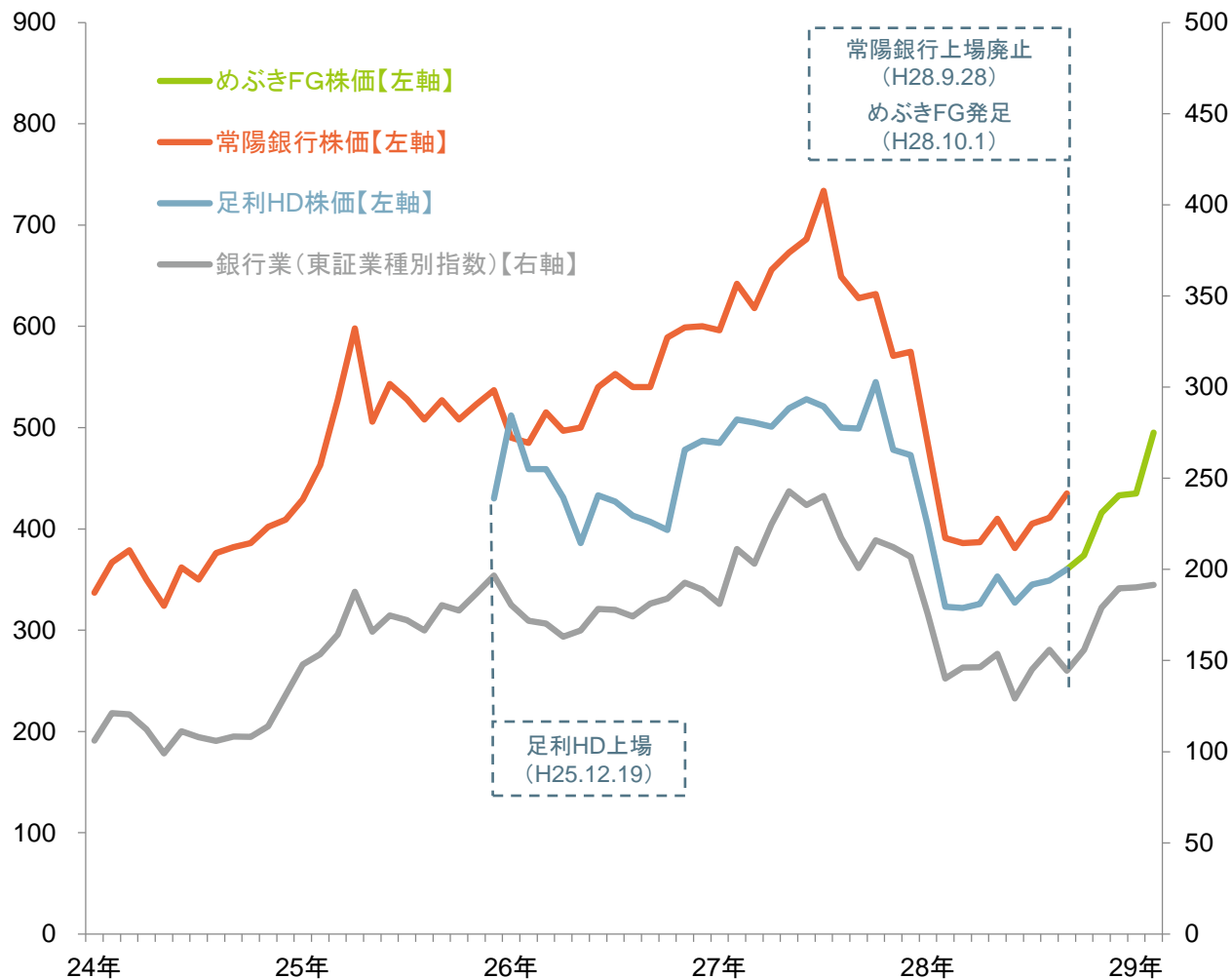
(*)28年度常陽銀行株主優待実績 3167アイテム



※画像は地元特産品のイメージです

株価の推移

(単位:円)



株価指標 (H29.2.28基準)

当社株価 : 495円
 昨年来高値 : 500円 (29.2.24)
 昨年来安値 : 293円 (28.4.8)
 時価総額 : 5,836億円

* PER等の指標は、経営統合により異常値となることから、掲載しておりません。

ご参考

東証株価指数 (TOPIX)

TOPIX : 1,535
 PER : 16.72倍
 PBR : 1.28倍
 昨年来高値 : 1,559 (29.2.22)
 昨年来安値 : 1,192 (28.6.24)
 配当利回り : 1.66%

ホームページのご案内

○ めぶきフィナンシャルグループのホームページ

総合トップ 個人のお客様

<http://www.mebuki-fg.co.jp>

株主・投資家の皆様

<http://www.mebuki-fg.co.jp/shareholder/>



クリック



【業績・財務情報】
 【株主のご案内】
 【IRライブラリー】
 【株主優待について】
 【IRカレンダー】
 【IRに関するよくあるご質問】
 など、随時更新してまいります。

ニュースリリース	
めぶきフィナンシャルグループ	常備銀行 足利銀行
2017年2月16日	医療機関・介護事業向け「2018年度経営戦略・介護報酬引上げの影響と対応策セミナー」開催のお知らせ (PDF 324KB)
2017年2月10日	平成29年3月期第3四半期 決算短信 (PDF 1037KB)
2017年2月10日	平成28年度第3四半期 決算短信 (PDF 1441KB)
2017年2月10日	平成29年3月期 第3四半期業の自己資本比率について (PDF 134KB)
2017年1月30日	「めぶき地域創生ファンド」による第1号案件への投資について (PDF 294KB)
2017年1月20日	常備銀行みず利銀行のキャッシュカード等発行事務の共同化について (PDF 161KB)
2017年1月19日	常備銀行の店舗ネットワーク見直しについて (PDF 303KB)
2016年12月26日	定款特約付無印留付社債の期間満償還に関するお知らせ (常備銀行) (PDF 63KB)
2016年12月20日	「事業承継・M&Aセミナー」の開催について (PDF 177KB)
2016年12月7日	めぶきフィナンシャルグループ発行証券「ハイブリッド型交換債2017」の開催について (PDF 173KB)
サイト更新情報	
2017年2月17日	平成28年度下期の個人投資家さま向け会社説明会の開催スケジュールを掲載しました。
2017年2月10日	平成29年3月期第3四半期 決算短信・決算説明資料・自己資本に関する開示を掲載しました。

本日は、めぶきフィナンシャルグループの会社説明会にお越しいただき、誠にありがとうございました。今後とも、株主の皆さま、お客さま、地域の皆さまのご期待にお応えできますよう役職員一同全力を尽くしてまいります。

引き続き一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

本件に関するお問合せ先

株式会社 めぶきフィナンシャルグループ 経営企画部

TEL 029-300-2869、2603

E-mail ir@mebuki-fg.co.jp

URL <http://www.mebuki-fg.co.jp/>

【ご注意】

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定の有価証券等の売買を勧誘するものではありません。

本資料に記載された事項の全部または一部は予告なしに修正または変更されることがあります。

本資料には将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営を取巻く環境の変化などにより実際の数値と異なる可能性があります。